

JICA横浜 教師海外研修とは

独立行政法人国際協力機構(JICA)が主催する、国内事前研修、海外での現地研修、国内事後研修で構成される国際理解教育・開発教育実践のための研修プログラムです。

訪問する国の歴史、現状、人々の生活、国際協力などについて学び、国際理解教育・開発教育の実践者育成と推進を目的としています。

2025年度研修概要

対象教員：神奈川県および山梨県の教員

参加者：特別支援学校教員1名、小学校教員2名、中学校教員5名、高等学校教員2名
(合計10名)

渡航国：パラグアイ共和国

研修期間：2025年6月～2026年3月(海外研修は7/25～8/8)

研修回数：渡航前国内研修3回、現地研修2週間、帰国後国内研修3回

研修テーマ：「多文化共生・移民」

研修参加者からのメッセージ

私たちは、この研修を通して、共生を考える一歩目は「知ろうとする姿勢」ではないかと思うようになりました。他者とよりよく関わっていくには、相手の立場、状況、背景、物語に関心を持つことが大切です。「知る面白さに気づいて、他者への想像力を広げてもらいたい」そんな願いを込めてこのワークを作成しました。

現地に行っていない方でも、校種を問わずどなたでも使用することができます。

ホームルーム、朝の会、または授業でご活用ください。このワークの他にも、授業の様子をまとめた記事、私たちの研修報告書、研修での学びを短くまとめた動画を作成しました。

QRコードから
ご覧ください!



独立行政法人国際協力機構 **横浜センター**(JICA横浜)

〒231-0001 横浜市中区新港2-3-1

TEL:045-663-3253 / FAX:045-663-3265

Email:yictpp@jica.ca.jp / <https://www.jica.go.jp/yokohama>



2025年度JICA横浜 教師海外研修参加者作成



多文化共生ワーク

気になる木

●ねらい(この教材を通して、気づいてほしいこと)

「相手を知ろうとすると、面白い!」

●使い方例

1.この木がこの場所に生えている背景を考える

◎「この写真を見て気づくことをあげてみよう」「あなたが、ここを歩いていたら、どう思いますか?」

Ⓐ「邪魔だなあ」「なんでここに木があるんだろう」「なんで切らないんだろう」「木を大切にしている」

◎「(そんな声を受けた上で)この木の気持ちになって、心のつぶやきを考えてみよう」

Ⓐ(吹き出しに、木になったつもりで記入)

【流れ】個人で考える(付箋で一人3つなど)→ペア/グループで共有→全体で共有する。

その過程で、様々な人の考えから多様な見方を知る。

2.相手の背景について考える、実社会に例える

「1」の活動から発展させる。木を身の回りの人々に置き換え、それぞれの人の想いを「つぶやき」として考えさせる。

例：外国人観光客、キャリーケースをひく旅行者、車椅子利用者、けがをしている人

※他者の背景を考える過程で、自分の価値観に気づかせたい。(何かモヤモヤを抱えて泣きたい人ってどんな人がいると思う?)

●キーワード

国際理解/国際協力/人権/共生/マイノリティ/他者理解/自己理解/相互理解/コミュニケーション/環境/町づくり/都市開発/価値観/秩序

●使用場面

あらゆる学年・場面で使用することができます。興味関心を引き出し、意見共有も容易にできるので、特に導入におすすめのワークです。例：学級づくり、授業開き、アイスブレイク、各教科等

※JICA横浜ホームページにて、このワークを使った各校種別の指導案を提示しています。ご活用ください。



本ワークの写真【撮影：2025年度JICA横浜教師海外研修参加者】

南米パラグアイの首都アスンシオンで撮影した写真です。

桃色の花が咲き誇る「ラバチヨ」など街中に木が多く、環境保護のため無許可の伐採を禁止・制限する法律があります。



